

たぐすい

JFグループ兵庫



濱坂漁業協同組合 やましろあきひと
山城明人さん

特集 漁協青壮年部連合会の活動紹介

CONTENTS

- 2 特集 漁協青壮年部連合会の活動紹介
- 4 輝く若手漁業者インタビュー 山城明人さん
- 6 中川照央氏 旭日小綬章受章祝賀会
- 7 新JF組合長のご紹介
(一財) 兵庫県水産振興基金役員が海業先進地を視察
- 8 播磨地区漁協女性部連合会 通常総会
一般社団法人 播磨漁友会 通常総会
播磨地区漁協職員協議会 通常総会
- 9 淡路・摂播地区漁協青壮年部連合会 視察研修
- 10 豊漁祈願祭・兵庫県組合長懇談会
- 11 大輪田塾だより 令和6年度 現地研修開催
- 12 JF浜坂諸寄で新造漁船「共幸丸」が披露
兵庫県漁港漁場協会 漁港漁場事業研修会 開催
- 13 ようそろ
日本漁船保険組合 兵庫県内海支所 漁船保険事務研修会
- 14 水産技術センター研究発表会のご案内
- 15 兵庫JCC通信
- 16 SEAT CLUB 魚介レシピ

兵庫県水産振興基金では、漁村地域の活性化を図るため、今回は漁協青壮年部連合会の活動を紹介します。

漁業者等が行う様々な活動に要する経費の一部を助成しています。

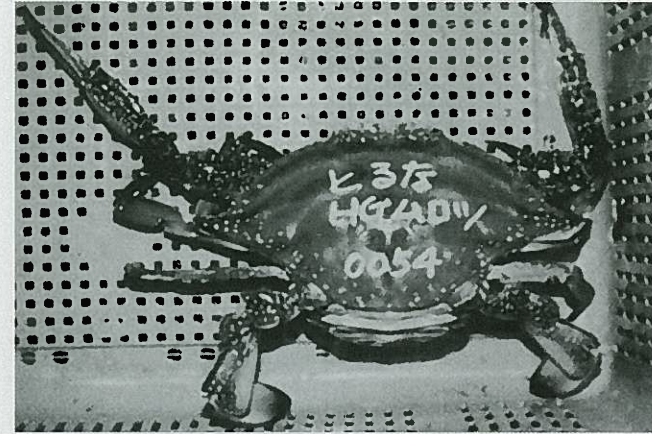
【活動事例】 ガザミふやそう会

昭和61年12月、ガザミ資源の維持増大を図ることを目的に「ガザミふやそう会」を設立し、これまでお腹に卵を抱いた抱卵ガザミの保護運動ならびに甲幅長12cm以下の稚ガザミの再放流運動を展開してきました。長年にわたる活動は本県漁業者のみならず、一般の皆様からの賛同を得ることができ、他府県にも活動の輪が大きく広がってきています。

《摂津播磨地区漁協青壮年部連合会からのメッセージ》

変わりゆく環境に対応できず、減り続けていくガザミをなんとかしたいという思いで保護活動を続けています。先人から受け継いできた海の恵みを失ってしまわないよう、稚ガザミ再放流の際に保護装置の設置を行うなど、資源増大に向けた新たな取組にもチャレンジしていく予定です。

【事業主体】 摂津播磨地区漁協青壮年部連合会



抱卵ガザミを買上げ、「とるな」マークをつけて再放流しています



会員募集ポスターを作成し保護活動に賛同する一般参加者も募集

【活動事例】 一次産業情報発信

淡路島の漁業や水産物の魅力を発信し、漁業者や漁協職員の担い手確保と淡路産水産物の消費拡大を目的とするとともに、同じ一次産業である若手農業者と連携し、消費者に対して淡路産の魅力発信として各地区でイベントを開催しています。また、地元の学生に対して、漁業・農業現場の見学や体験を含めた学習会を開催しています。

《淡路地区漁協青壮年部連合会からのメッセージ》

淡路に来る人に淡路の水産物を知ってもらい、淡路産を見かければ手に取ってもらえるようになればと思います。
学生に対しては淡路島の一次産業を進路の一つとして考えてもらえるようになればとの思いで開催しています。

【事業主体】 淡路地区漁協青壮年部連合会



淡路島の農水産物を使用した周知イベントを開催し来島者への魅力発信



地元学生に一次産業の仕事を知ってもらう現地見学会の開催

【活動事例】 少年少女水産教室

次世代を担う子供達に、地元の主幹産業である漁業に接し、興味をもってもらい、漁業の正しい知識と自然環境の大切さを知ってもらうとともに、漁業の魅力を体験してもらうことを目的として、漁業体験や環境学習・調理実習などの体験型イベントを各地区で開催しています。

《但馬地区漁協青壮年部連合会からのメッセージ》

海の近くだけでなく、山に囲まれた学校の子供達にも、海の素晴らしさや漁業の良さを知ってもらい、この経験をきっかけに将来漁業関係の仕事に就き、但馬の漁業・水産物を盛り上げてもらいたいです。

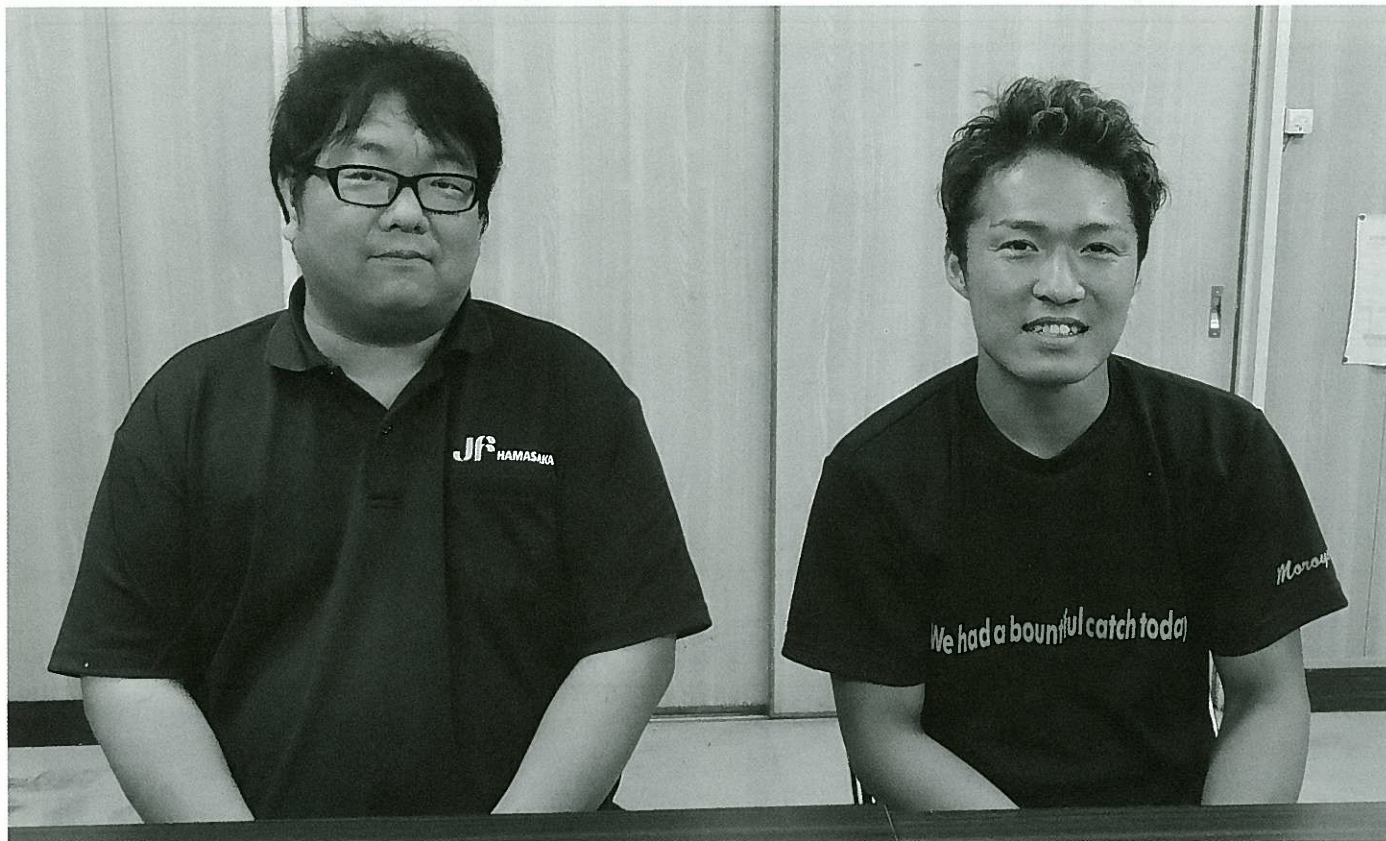
【事業主体】 但馬地区漁協青壮年部連合会



兵庫県の漁業調査船「たじま」、香住高校実習船「但州丸」を使用した底曳網漁業体験を実施
また女性部と協力して地元水産物を使用した昼食会の開催や、ちくわ作り体験等を開催し次世代の子供たちへ水産物の魅力を伝えています

輝く 若手漁業者インタビュー

濱坂漁業協同組合 **やましる あきひと**
山城 明人さん



今回は濱坂漁業協同組合の山城明人さんにお話を伺いました。

同組合職員の中村 彰さんにも同席いただき、親方の田中壮一さんからコメントをいただきました。

●自己紹介をお願いします。

(山城さん) 山城明人です。35歳です。妻、子供2人の4人家族です。新潟県出身で、9年ほど前に東京から妻の実家がある新潟県に移ってきました。知らない土地での新生活に、まずは知人友人をたくさん作ろうと意気込んでいたのを今でも覚えています。移ってきた当初は、自分が漁師になるなんて思ってもいなかったです。(笑)

●着業して何年目ですか？

(山城さん) 6年目になります。

●漁業種類について教えてください。

(山城さん) 沖合底びき網漁業です。

●漁師になろうと思ったきっかけは？

(山城さん) 元々、義父が共幸丸の乗組員で、「興味ないか、船に乗ってみたいか」と声をかけてもらったことがきっかけです。

●漁師になることについて家族の反応はどうでしたか。

(山城さん) 特に変わった反応はありませんでした。大変な仕事なのは知っているの、色々サポートしてもらっています。

●着業までの過程について教えてください。

(山城さん) 義父に紹介してもらって、初めは試しに船に乗せてもらいました。その時に義父や先輩漁師に色々教えてもらって、そのまま乗船することになりました。

●漁業の仕事については、奥さんから聞かれていたのですか？

(山城さん) どちらかというと、義母から色々聞いていました。義母は、漁師の妻として義父を見ていたので、妻は漁業について詳しくなかったの、義父と義母から詳しく聞いていました。

●以前は漁業関係と違うお仕事をされていたのですか？

(山城さん) 前職は新潟県で水道関係の仕事をしていました。

●沖合底びき網漁業は、1週間くらい沖に行っていますが、漁に行く日はどのようなタイムスケジュールですか？

(山城さん) 炊事も担当しているので、食事の準備や積み込み作業の関係で、出港の2時間前に船に行き準備をしています(ホタルイカ漁を除く)。操業パターンは、出港～漁場着→投網準備→投網→曳網→揚網→(次の網)→投網準備→投網→曳網【この間に選別・箱詰作業を行います】→揚網と後は入港するまで同じ作業を行います。選別・箱詰作業が終われば、次の作業まで休憩仮眠をします。

●漁場に着くまでにどれくらい時間がかかりますか？

(山城さん) 時期や獲る魚種によっても違うのですが、近かったり、遠かったりします。近場で獲れない時は、他の船と連絡を取り合っ、この辺はいいなと思ったら沖の方へ移動

します。遠いところだと10時間、近いところで1時間半から2時間ぐらいで漁場に着きます。

●ホタルイカ漁のときは朝が早いのですか？

(山城さん) ホタルイカは日中しか獲れないので、朝の早いうちに漁場に着き、明るくなってきたらすぐに漁を始めます。暗くなると浮いてきてしまうので獲れなくなります。

●炊事も担当されていると伺いましたが、よく作られる料理は？

(山城さん) 肉じゃが、カレー、親子丼です。あとは、獲れた魚を煮つけや刺身にします。朝、昼、夜、夜食の4食を作ります。乗組員の方々が料理などを教えてくれるので、乗船してからだいぶ料理を覚えましたが、まだ上手ではないです。

●1週間ほど漁に出られるので、洗濯とかはどうされているのですか？

(山城さん) 洗濯物は全部家に持って帰ります。人によってはコインランドリーに持って行ったりしています。私の妻は、全開で洗濯機を回しています。(笑)

●山城さんが乗船されている共幸丸が新船になったと聞きました。新船の準備作業等でお忙しいところでしょうか？

(山城さん) これからロープなどの資材を積み込む作業に入ります。

●新船に乗船するにあたって何か思いはありますか？

(山城さん) 以前の船よりも設備が進化・充実しているので、より一層新鮮な魚介類を消費者の方々に提供できるだろうと思います。また、船内の各所で変わったところがたくさんあるので、まずは事故のないよう安全に心掛けて仕事を続けていきたいと思っています。

●実際に着業してみているいかがですか？

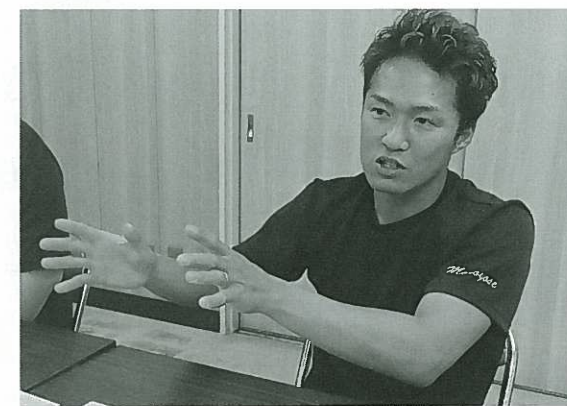
(山城さん) 試しに乗船した時は、時間も短かったので、なんとかなるかなと思っていました。実際に仕事で乗船すると、日数も長くなるので、メンタル的にもフィジカル的にも思ったより大変でした。子供が小さかったので、家族と会えなくなることが多かったです。フィジカル的には、仕事の流れやパターンが読めてくるので慣れてきます。着業してよかったと思うことは、漁師町なので様々な方が自分を見てくれるし、覚えてくれる。また皆が色々なことを教えてくれるので魚のことだけでなく、知識を広げることができてよかったです。

●ハタハタが獲れないと聞きました。最近の水揚げや海の環境で何か思うことがありますか？

(山城さん) 自然相手なので、どうこうできない面もあります



新船案内の様子



山城明人さん

が、生き物を獲って生活しているので海を大事にすること。少しずつ意識して海を守る行動ができればいいなと思います。海の生き物がなくなったらどうにもならないので。

●今後の抱負をお願いします。

(山城さん) 普段同じパターンで漁をしている中でも、船上で「これやってみよう」など乗組員と話し合っ試してみる機会も多いです。獲れた魚で製品を作っているの、質のいい綺麗なものを少しでも水揚げして提供できるように気を付けていきたい。また、カレイなどの冷凍製品の取組もやっていければと思います。

●これから漁師を目指す方へ何か気をつけた方がいいと思うことはありますか？

(山城さん) 私がよく失敗していたのは、これで大丈夫だろうとか、これでいいなと思ったことが、自分が思っているだけで、実はよくないということがありました。できたつもりになってしっかりできていないことが経験上あったので、わからないことなどはしっかり聞いて教えてもらって作業を行う。このことは今後も大事にしたいと思っています。

●これから漁師を目指す方へのメッセージをお願いします。

(山城さん) 大変なことは多いですが、大変な思いをして頑張った分だけ水揚げや給料に反映されるので、やりがいはいっぱいあると思います。これから漁師を志す方と一緒に漁業を盛り上げていけたらいいなと思います。

●本日はありがとうございました。

親方の田中壮一さんからコメント

●山城さんが作る料理で上手なものは？

ハタハタ、カレイの煮つけは上手です。

●親方の田中さんは、山城さんをどのように見ていましたか？

乗船当初より網揚げのベルの音が鳴ると誰よりも早く船員室から上がってくるなど、常に緊張感をもって仕事に取り組んでいると思います。料理のレパートリーが増えているし、作中に思ったこと、船長や機関長から言われたことをメモ帳に書き込むなど当初からやる気を感じていました。

●ハタハタが獲れないと聞きました。最近の水揚げや海の環境で何か思うことがありますか？

ハタハタに限らず、どの魚種も年々漁獲量が減少している。現在の魚価が高値で推移しているから水揚げが上昇しているだけだと思っています。

●山城さんへのメッセージをお願いします。

炊事を任せている分、通常の仕事と並行して大変だと思うが、ケガにだけは気を付けてこれからも頑張してほしいと思います。

中川照央氏 旭日小綬章受章祝賀会

なぎさ信用漁業協同組合連合会

7月20日（土）、姫路市内のホテルにおいて中川照央氏（なぎさ信用漁業協同組合連合会経営管理委員、JF室津代表理事組合長）の旭日小綬章受章祝賀会が県内外から約100名が出席するなか盛大に開催されました。

中川氏は、長年に亘り地域の漁業振興、担い手確保の促進と金融機能を活かした県水産業の振興に幅広く貢献された他、県漁協系統団体の要職を歴任するとともに、全国初の県域を跨ぐ広域合併の実現に尽力されたことなどの功績が認められ、令和6年春の叙勲で旭日小綬章受章の栄に浴されました。



主催者代表挨拶をされる村瀬会長



祝辞を述べる田沼会長



祝辞を述べる千葉支店長

支店長より「なぎさ信漁連は、全国で初めて県域を跨ぐ広域合併を完成させた信漁連として、広域信漁連の先駆けとして注目を集め、また、漁家経営相談機能はなぎさ信漁連が共通のモデルとなっており、この功績はとても大きいものであります。」との挨拶がありました。

この後、JF室津の役員から目録の授与があり、続いて、中川ご夫妻に対して4人のお孫さんから花束と記念品の贈呈が行われました。

受章者あいさつで中川氏は、「このたび栄えある叙勲をいただきましたこと、身に余る思いです。

私は、平成16年に組合長に就任し、組合員や地元住民の皆様並びに漁協役員職員のご協力を得て、漁協自らがセリに参加することで販売価格の底上げをできたことや、カキ養殖の水揚げが今や漁協全体の6~7割を占める主要漁業に成長したことを誇らしく想うと同時に、関係者の方々に深くお礼申し上げます。

また、平成21年に漁協系統金融機関である兵庫県信漁連の理事に就任、平成28年に会長職を拝命し、常勤会長として和歌山県信漁連との合併準備に携わることとなり、平成29年4月に全国初の県域を越えた広域合併を完成させ、合併から7年が経過する中で4年間経営管理委員会会長を務めさせて頂きました。

今後も経営管理委員のひとりとして、「愛される浜の金融機関」としてあり続けるために尽力してまいります。

この度の受章は、水産業界全体、行政、私を励まして頂いた多くの皆様のおかげであることは言うまでもなく、あらためて、心より感謝申し上げます。

長年に亘り私を支えてくれた妻、家族にお礼を伝えるとともに、本日ご臨席を頂きました皆様のますますのご健勝とご多幸を祈念いたします。」と謝辞を述べられました。

この後、代表者による鏡開きが行われ、兵庫県漁業共済組合川越組合長理事が乾杯のご発声を行い祝宴に入りました。ステージでは、漁協組合長をはじめ中川氏のご友人達のカラオケも披露され終始和やかな雰囲気にもまれるなか、一般社団法人播磨漁友会 大河会長から万歳三唱のご発声があり、盛会裡に終宴となりました。



▲乾杯の様子



▶万歳三唱の様子



謝辞を述べる中川氏

新JF組合長のご紹介

令和6年7月に新たにJF組合長に就任された方の御名前をご紹介します。

いしがみ としひろ
石上 敏弘氏
 (令和6年7月11日就任)



(一財)兵庫県水産振興基金役員が海業先進地を視察

(一財)兵庫県水産振興基金では、理事長交代の節目にあたる今年度の水産新領域調査事業として先進地視察を行いましたのでその概要を報告いたします。

6月30日（日）から7月2日（火）の3日間、海業の先進地である歯舞漁業協同組合をはじめ道東エリアで視察を行いました。多人数での道東廻りは困難なため、新旧役員14名、北方領土返還運動兵庫県推進会議副会長を務められる田沼政男JF兵庫漁連会長、職員2名の計17名で実施しました。

網走港

初日は女満別空港から借り上げバスで観光施設や道の駅を巡りながらオホーツク海の漁業基地の一つで網走漁業協同組合のある網走港に向かいました。漁業生産額120億円の組合としては施設が少なく感じました。ここで水揚げされる水産物はどのように荷捌かれるのでしょうか？

歯舞漁業協同組合

2日目は根室市にある日本最東端の歯舞漁業協同組合を訪問しました。組合員数は771人、漁業生産額は約90億円の組合です。

まず中村直樹専務理事から「歯舞漁港を核とした地域振興について」取り組みや施設の概要について説明を受けました。

組合では水産物のブランド化・イベント開催・クルーズ船の運航・漁業体験・渚泊などの漁村地域の振興や根室市・東海大学と連携した昆布体験漁業型インターンシップによる新たな担い手対策、さらに研究機関や企業等と連携した小型漁船への防災情報伝達システムの開発など、組合内外の関係者と連携して様々な取組をされています。

施設については、高度衛生管理型市場や市場見学スペース、災害一時避難施設、非常用電源施設、組合食堂、直売所など漁協営の建築物と駐車場、道路、橋梁など国

営の人工地盤関連施設からなる複合施設が平成26年度から令和4年度にかけて整備されています。事業費はそれぞれ28億円、53億円と本県では類を見ないスケールの漁業関連施設です。官民連携して当地域を振興しようとする強い意志が伝わってくるようでした。

質疑応答の後、中村専務の案内で施設を見学しました。最後の見学場所となった直売所は、歯舞漁協のブランド水産物を買求める私達でさながら百貨店の初売り会場のようになりました。

組合視察後、約8km北東にある本土最東端の納沙布岬を訪れました。最も近い北方領土である貝殻島の古びた灯台が3.7km沖合に見えます。貝殻島周辺では日口民間交渉に基づくコンブ漁が行われますが、今年は資源状況が悪く前日で終漁し、約200隻の漁船による漁の様子を見ることはできませんでした。

打瀬船

3日目は北海道遺産に選ばれている野付湾の打瀬船をチャーター船から見学する予定でしたが、強風のため休漁になり急遽中止。昨年は資源保護のため解禁されなかった北海シマエビ漁が視察6日前に解禁となり喜んでいただけに残念です。

このためプランBに沿って根室金比羅神社に参拝後、サケ定置網の設置や補修の状況を見ながら野付半島ネイチャーセンターを訪問。国後島を目前に望む野付半島に関する展示を見学した後、中標津空港へ向かい空路帰路につきました。



歯舞漁業協同組合の全景



組合視察の様子

播磨地区漁協女性部連合会 通常総会 播磨地区漁協女性部連合会

7月16日、水産会館にて、播磨地区漁協女性部連合会は、5会員7名と加古川農林水産振興事務所 水産漁港課 岩佐課長、(一社)播磨漁友会 大河会長はじめ来賓5名の出席のもと令和6年度通常総会を開催しました。

総会は、高山会長より「過去4年間はコロナ禍の影響で女性部同士も顔を合わせる機会が減ってしまいましたが、今後はこれまでの活動の良さを残しながら時代に合わせた女性部活動の在り方を取り入れていき、新たな挑戦を行うため、皆で支え合いながら、活動の再建に取り組んでいきたいと思います。」と挨拶があり、兵庫県漁業協同組合連合会 突々専務理事はじめ来賓紹介に続いて、議事に入りました。

令和5年度事業報告及び収支決算、播磨地区漁協女性部連合会規約の一部改正、令和6年度事業計画及び収支予算、令和6年度会費賦課額及び徴収方法決定についての4

議案が審議されすべて原案のとおり承認されました。

今年度からの新たな活動として、「播磨女性連オリジナル商品開発」に向けて、会員一丸となって活動を進めていきます。



一般社団法人 播磨漁友会 通常総会 一般社団法人 播磨漁友会

6月28日(金)、播磨漁友会館(姫路市)にて、一般社団法人 播磨漁友会の第49回通常総会が、開催され、会員16名並びに行政機関、系統団体から来賓の方々が出席されました。

開会にあたり、井上 仁会長(JF岩見)が挨拶し、来賓を代表して兵庫県農林水産部水産漁港課 山下正晶水産漁港課長、兵庫県漁業組合連合会 田沼政男会長が、祝辞を述べられました。

新組合長紹介では、4名の組合長、西尾幸洋(JF東二見)・松本久進(JF西二見)・藤澤和隆(JF播磨町)・

福田 隆(JF伊保)が、新メンバーとして紹介されました。

その後、井上会長が、議長を務め、2023年度事業報告、任期満了に伴う役員改選などの4議案が、原案通り可決承認されました。

また、任期満了に伴う役員改選では、10名の役員が選任されました。大河新会長より、「厳しい状況にあるが、歴史や先輩方の思いを引き継ぎつつ、頑張りますのでよろしくお願いします。」と選任役員を代表して、就任挨拶をされました。また、井上前会長は、顧問へ就任されました。

会 長：大河 優(JF赤穂市)、副 会 長：中澤卓生(JF姫路市)・戎本裕明(JF明石浦)
理 事：田沼政男(JF林崎)・中川照央(JF室津)・中村利公(JF家島)・西尾幸洋(JF東二見)・
福田 隆(JF伊保)
代表監事：竹中太作(JF坊勢)・監 事：川端浩司(JF相生)
顧 問：井上 仁(JF岩見) 敬称略

播磨地区漁協職員協議会 通常総会 播磨地区漁協職員協議会

6月27日(木)、播磨漁友会館(姫路市)にて、播磨地区漁協職員協議会令和6年度通常総会が、代議員25名(委任状5名含む)出席のもと開催されました。

開会にあたり、尾形直紀会長(JF林崎)が挨拶し、来賓を代表して、(一社)播磨漁友会 井上 仁会長、姫路農林水産振興事務所 西野英樹所長補佐兼水産課長、兵庫県漁業共済組合連 福本好宏専務理事が、それぞれ漁協職員

の役割と活躍に期待を込めて祝辞を述べられました。

議事に入り、令和5年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案、令和6年度事業計画及び収支予算、会費賦課額と徴収方法の3議案が審議され、原案通り承認されたのち、任期満了に伴う役員改選が行われ、前役員8名が全員再任されました。

会 長：尾形直紀(JF林崎)、副 会 長：福井基之(JF東二見)・平田一典(JF赤穂市)
理 事：小田見義(JF家島)・竹中達彦(JF坊勢)・杉本大樹(JF相生)
監 事：宮部博行(JF明石浦)・宮本成記(JF室津) 敬称略

淡路地区漁協青壮年部連合会 視察研修

淡路地区漁協青壮年部連合会

淡路地区漁協青壮年部連合会(山崎大輔会長：JF淡路島岩屋)は、会員の知識向上と交流を深めることを目的とし、7月5日(金)～6日(土)の2日間にわたり、ヤンマーパワーテクノロジー(株)塚口工場(尼崎市)と京都市中央市場(京都市)で視察研修会を開催しました。

1日目は、ヤンマーパワーテクノロジー(株)塚口工場で漁船用ディーゼルエンジンが生産されている様子を見学した後、定期点検を始めとする燃費改善の方法、カーボンニュートラル燃料に対応するエンジン技術開発について説明があり、参加者は熱心に聞き入っていました。

2日目は、京都市中央市場で05時20分開始の水産物のせりを卸売場で見学した後、仲卸業者が入る売場を見学しまし



京都市中央市場での様子

た。令和5年3月にリニューアルされた新しい施設の中で、実際に水産物が取引される様子に、参加者は興味津々でした。

その後、卸売業者、仲卸業者との意見交換会を実施しました。意見交換会では「どのような魚が京都で評価されているのか」「単価の向上のために、漁業者が実施できる取組はどのようなものか」など、活発な意見交換をすることができました。

今回の視察研修会では、エンジンのメンテナンスによる省エネや水素をはじめとするエンジン開発に加え、最新の高度衛生管理の市場や京都市場における淡路の魚の評価等について学ぶことができ、今後の漁家経営や青年部活動にとって有意義な研修会となりました。



ヤンマー塚口工場での様子

摂播地区漁協青壮年部連合会 視察研修

摂播地区漁協青壮年部連合会

摂播地区漁協青壮年部連合会(福井健二会長：JF林崎)は視察研修会を7月9日(火)～10日(水)の2日間にわたって開催し24人が参加し、豊前海のガザミ資源の増やす取り組みや漁具漁網の製造工程などを学ぶため、福岡県水産海洋技術センター豊前海研究所(豊前市)、株式会社ニチモウワンマン(下関市)を訪問しました。

豊前海研究所では、豊前海の漁業と環境・研究所の業務概要・ガザミを増やす取組について学習しました。特に、ガザミを増やす取組として、稚ガザミはアマモや流れ藻に付着して生活していることに着目し、流れ藻の代わりに中古の海苔網を使用することで外敵から保護でき、一定の効果がでていることの成果報告を受けました。意見交換の場では、稚ガ

ザミの適切な放流時期についてなど積極的に質疑応答がなされました。

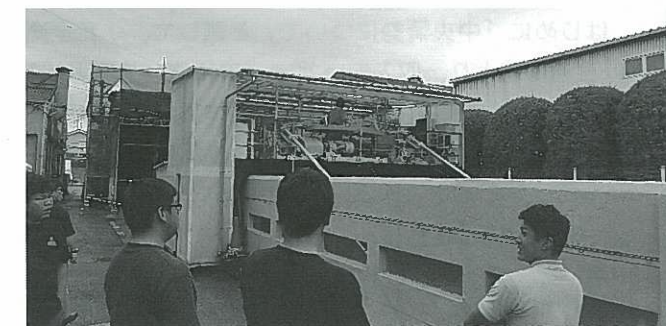
続いて、ニチモウワンマンでは大型の自動編網機で作成される漁網や全自動海苔乾燥機の組立作業を見学しました。また、水槽実験場でトロール網を様々な速度で曳網し、網の開き方などの違いを見学し、参加者は興味津々に説明を受けていました。

今回の視察研修会は、ガザミの取組や漁具の扱い方について学習でき、大変有意義な研修会となりました。

特にガザミの放流方法・時期については、抱卵ガザミの買上尾数が減少傾向にある中で、ガザミふやそう会の新たな活動に向けて検討を開始する予定にしております。



豊前海研究所の様子



ニチモウワンマンでのトロール曳行水槽実験の様子

令和6年 豊漁祈願祭

7月17日（水）、令和6年豊漁祈願祭（主催：JF兵庫漁連）が神戸市の海神宮にて、県内JF組合長、系統団体・行政の約60名が出席しました。

本祈願祭は、本県水産業の繁栄と操業安全を祈願することを目的に毎年開催しており、県内組合長並



びに関係者が一堂に会して執り行われました。

神事は厳粛な雰囲気の中でJF兵庫漁連 田沼政男会長により祭祀が奏上された後、参列者によって玉串が奉奠され滞りなく神事が執り行われ参加者一同は、豊かな海の創出と豊漁、操業の安全を祈願しました。

令和6年 兵庫県組合長懇談会

令和6年 兵庫県漁業協同組合長懇談会



7月17日（水）、午前中の豊漁祈願祭に引き続き神戸市の須磨温泉寿楼にて、兵庫県組合長懇談会を開催し、JF組合長、系統団体・行政の約60名が出席しました。

組合長懇談会では、「中央情勢について」「JFグループ次期運動方針について」「豊かな海の実現に向けた取組について」の3講演が行われました。

はじめに「中央情勢について」と題して、JF全漁連 三浦常務より、収入安定対策（SN事業・漁獲共済）をはじめとした基金事業の現状、海洋環境の激変等に対応するための予算要望に加え、会議前日に閉幕した中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）の結果について報告が行われました。

続いて、JF全漁連 杉田参事より「JFグループ次

期運動方針について」と題して、現行運動方針の振り返りと現状と課題認識、次期運動方針の具体的な取組等について説明が行われました。講演後は、県域組織協議に移り、「女性活躍の具体策」「食糧供給産業としての国民への理解」といった追加意見を含め活発な意見交換がなされました。

最後に「豊かな海の実現に向けた取組について」と題して、JF兵庫漁連指導部 樋口課長より、県内各地で行われている『海底耕耘』『海底への施肥』『栄養塩添加試験』についてモニタリング結果や水中ドローンの映像を用いて報告が行われました。

懇談会の終了後は、情報交換会が開催され、参加者は当日のテーマをはじめ活発な意見交換がなされ、会議は盛會裡のうちに閉会となりました。



大輪田塾だより

令和6年度 現地研修開催

今年度の大輪田塾現地研修は7月16日（火）～17日（水）の2日間、塾生をはじめ計14名が但馬地域と三木市を訪問しました。

7月16日（火）

浜坂漁業協同組合を訪問し、川越一男代表理事組合長より、「独自のブランドの取組」をテーマに、同組合の多岐にわたるブランド開発の経緯と、付加価値向上への取組について講義を受けました。漁業者と漁協職員が一体となって価値を高める意識作りを図るなど、実体験を交えた講義に塾生は熱心に聞き入っていました。

次に漁港で、沖合底びき網漁船や冷凍冷蔵施設を見学。「第一幸榮丸」船主の川越伸二氏より大型船の案内を受けつつ、質疑を行いました。「漁網のしかけは一隻ごとに違うのか」という塾生からの問いに、「一隻だけ水揚げが良くても日本一の浜にはならない。全員で協力して浜全体の水揚げを向上させる必要があるため、技術や情報共有など



川越組合長の講義



沖合底びき網漁船「第一幸榮丸」見学

密に行っている。」と回答され、浜全体での水揚げを高めていく姿勢に塾生は感銘を受けていました。

7月17日（水）

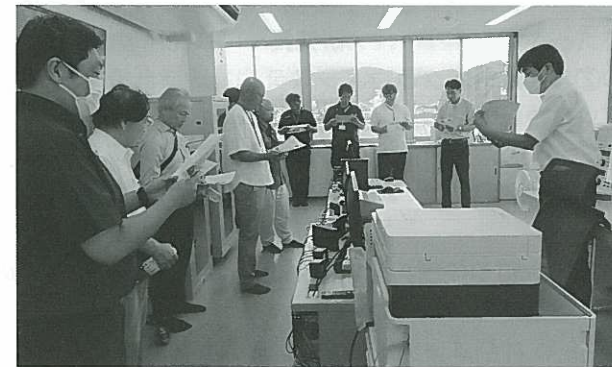
香住漁業無線局を訪問し、永江局長より香住漁業無線局の概要や24時間体制で運営している無線事業について説明を受けました。次に但馬水産技術センターでは、妹背主任研究員より「水産加工の基礎と応用」について講義を受けた後、調査船「たじま」の見学等を行いました。

その後、但馬漁業協同組合では島崎本部長に直販施設や冷凍冷蔵施設を案内していただきました。同組合は、令和3年に24時間対応可能な全自動施設を導入し製氷作業の大

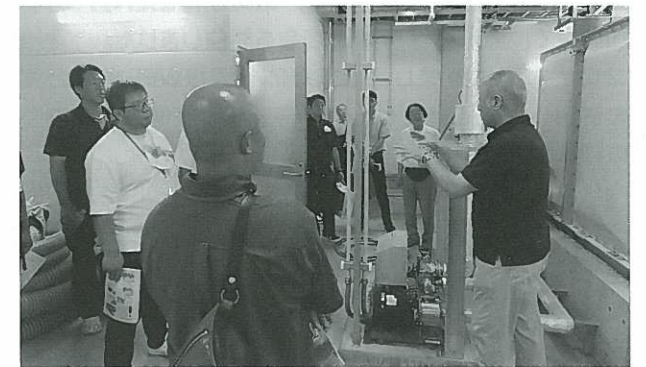
半を自動化。氷の積み込み作業の円滑化が図られています。

午後からは古野電気(株)三木工場を訪問し、座学の後、製造工場にてレーダーアンテナの原材料から完成までの工程を見学しました。自動化・効率化された製造工程の中でも、手作業で組み立てられている工程も多く、精密な所は手作業で支えられている様子に、塾生は驚愕していました。

今回の研修では、幅広く知識を深めるとともに、懇親会等を通じて、塾生の親交が深まった研修となりました。この度の研修でお世話になりました関係者の皆様へ厚くお礼申し上げます。



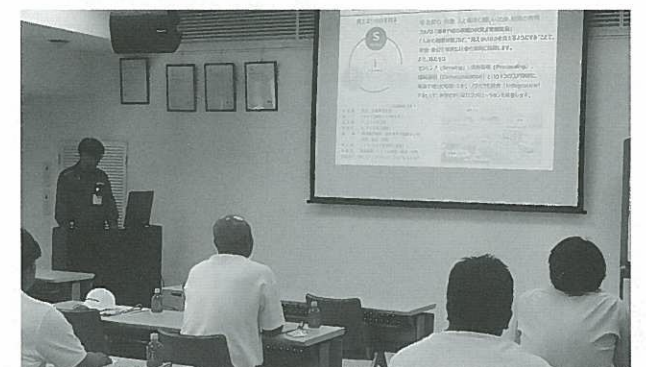
香住漁業無線局施設見学



但馬漁協 製氷施設見学



調査船「たじま」見学



古野電気(株)三木工場での講義

JF浜坂諸寄で新造漁船「共幸丸」が披露される

JF兵庫漁連

JF浜坂諸寄支所に所属する「共幸丸（116トン、鋼船、全長30.07メートル、幅6.25メートル）」が竣工し、お披露目されました。

当船は、「浜の担い手漁船リース事業」を活用し、福島造船所（島根県松江市）で建造された大型の沖合底曳網漁船で、甲板上のハードオーニングの常設や居住空間の充実により乗組員の労働・居住環境の改善が図られています。

また、従来船より船尾を延長することで省エネと船速の向上を図るとともに、冷水装置の自動化と能力向上により、

漁獲物の品質向上が期待できます。

6月30日（日）、母港となる諸寄漁港に「軍艦マーチ」が流れるなか、目にも鮮やかな大漁旗をたなびかせて入港し、多くの漁業関係者や地元住民の方々が出迎えました。船上での神事に続き、獅子舞や餅まきが行われた後、船内がお披露目され、真新しい船内や最新の設備に感嘆の声が上がっていました。

9月から沖合底曳網漁業の漁期が開始するため、地元の漁業振興への期待が高まっています。



漁港漁場事業研修会を開催

兵庫県漁港漁場協会

兵庫県漁港漁場協会（会長：浜上勇人・香美町長）は、6月14日（金）、県水産漁港課との共催で兵庫県水産会館において、県及び協会会員（市町、漁業協同組合等）51名の参加を得て、漁港漁場事業研修会を開催しました。

コロナ対策に考慮し、本年も昨年同様WEB参加と実参加の併用した研修会とし、小寺寿充県水産漁港課漁港整備官の挨拶でスタートしました。

今年度は、「ブルーカーボン」をテーマとして、兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センターの梶原慧太郎研究員に「ブルーカーボンの概要と取組事例」についてお話をいただきました。

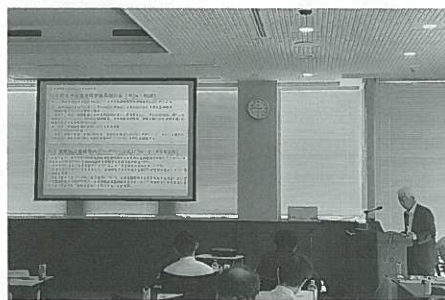
そのほかにも「漁港情報クラウドシステム」、「漁場調査事業の調査結果」の講演があり、出席者は熱心に聴講、活発な質疑等もあり有意義な研修となりました。

なお、講義内容と講師は次の通りです。

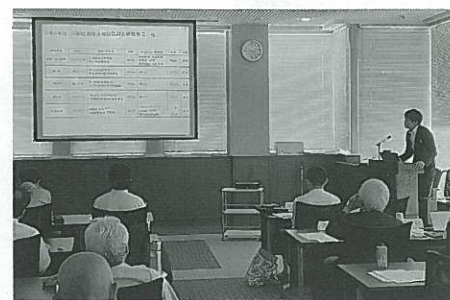
- ① ブルーカーボンの概要と取組事例
兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター 研究員 梶原慧太郎
- ② 漁港情報クラウドシステム（漁港台帳の電子化）について
公益社団法人全国漁港漁場協会
部長 佐治 信雄
専門技術員 小玉 篤
- ③ 令和5年度兵庫県漁港漁場協会調査研究事業の調査結果について
オリエンタル・テクノ株式会社
田中 智之



水産技術センター 梶原研究員



全国漁港漁場協会 佐治部長



オリエンタル・テクノ(株) 田中様

ようそろ

「ようそろとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときの号令として使われる」

とりとめのない話

森漁業協同組合 参事 平野 活



皆さまこんにちは、私は森漁協の平野 活と申します。

私の名前の（活）は（いくる）と読みます。当て字でまず読めないため、中学校の卒業証書授与の際、校長先生に「ひらの……名前何て読むの？」って小声で言われました。また皆様も覚えがあるかもしれませんが、小学校の時、自分の名前の由来を親に聞いて発表するという授業があったと思いますが、私の場合は「いきているだけで、まるもうけ」との事でした。

変わった名前（読み）[㊟]なので皆様に覚えていただければと思い、最初に書かせていただきました。

今までは楽しく読んでいた「ようそろ」に、何を寄稿するか悩みましたが、学生時代に淡路島方言を題材として調査したことを書かせて頂きます。

淡路島方言を取り扱うにあたり西は岡山県、南は徳島県・香川県、東は京都府・大阪府・和歌山県まで約80×2地点で語彙（写真や図を見てもらい何と言うか）や語法（言葉の使用状況）について、「この地域ではこの事柄をどのように言いますか？」と声をかけ、若年層及び高齢層の方言調査を行いました。

同じ言葉でも地域が変われば呼び方が違う、昔からの集落や山の地形や街道、川を挟んで呼び方が違う一方で海を挟んだ遠いところでも同じ呼び方で使われていた等の面白い発見が多くありました。

漁業組合で仕事をする中で、実際に使われている漁師さんの言葉は、地域の特色が方言として色濃く残っており、日々の発見を楽しんでいます。

また先日、西播地域から入組した職員に『この箱の中身、ほっという（捨てる意味）』と言ったところ、本人は『この箱の中身は、何もしないで』と言われたと思いつつ、『ごめん方言、捨てといての意味、伝わらなかったなあ〜』っということもあり面白い日々を過ごさせてもらっています。

方言はTV・電話やネット環境・交通事情等の変化でいずれは無くなっていくと言われていますが、地域の特色としてどうか残ってほしいものだと思います。

暑苦しい中、私のとりとめのない話を長々ご拝読いただき有難うございました。

これからも漁業者の皆様のため、活・動（いくる・うごく）していけるよう努力していきたいです。

令和6年度 漁船保険事務研修会 開催

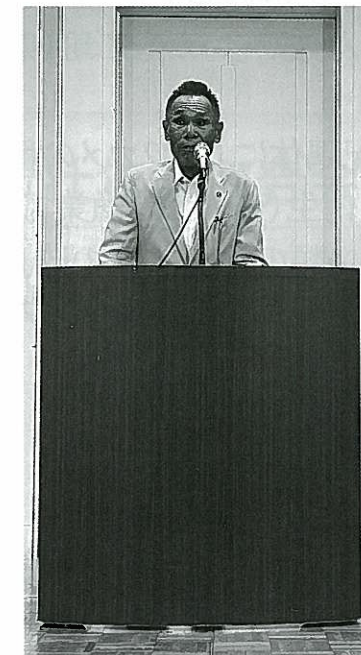
日本漁船保険組合 兵庫県内海支所

日本漁船保険組合 兵庫県内海支所は、令和6年度漁船保険事務研修会を7月9日（火）神戸市内のホテルで開催し、管内35漁業協同組合の組合長、担当役員をはじめ、県市町担当係官、系統団体代表者等約110余名が参加しました。

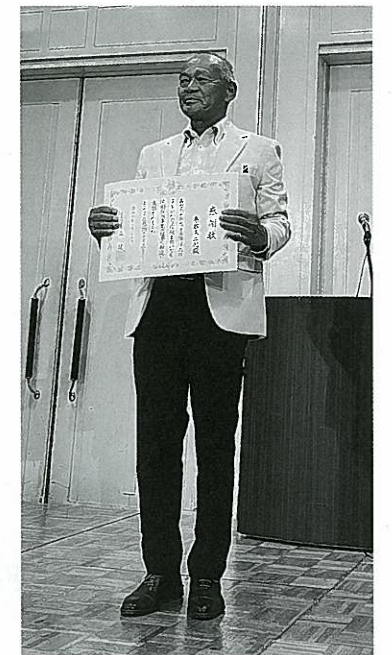
初めに、主催者挨拶として6月1日に就任された小磯富男運営委員長より、井上 仁前運営委員長へ功労の感謝の言葉と所信表明を述べられました。兵庫県農林水産部水産漁港課 山下正晶課長、兵庫県漁業協同組合連合会 田沼政男会長の来賓挨拶に続いて、賞状授与伝達式が行われ、無事故漁船所有者の部で兵庫漁業協同組合所属「海洋丸」（糸谷末二郎組合長所有）への水産庁長官表彰をはじめ日本漁船保険組合会長表彰として16隻の表彰が行われました。

引き続き、令和5年度の事業概況報告並びに令和6年度事業計画等について事務局から説明を行いました。

最後に片山 守総代が閉会の挨拶を行い、事務研修会は盛会の内に終了いたしました。



小磯運営委員長挨拶



賞状授与伝達式

高品質なメロンを 消費者に届けたい

小山博嗣さんは、以前はJA職員として直売所を担当していました。営農指導で農産物の魅力やこだわりについて嬉しそうに話す生産者と関わっていくうちに、自分も農業に挑戦してみたいと思うようになり、14年前からメロンを栽培しています。

営農指導で得たノウハウを活かし、栽培方法や環境づくりにこだわっています。化学薬品が含まれる農薬の使用回数を減らすため、病気の原因となるハダニの天敵であるチリカブリダニが含まれた生物農薬を使用した減農薬栽培を行います。その他の害虫についても、発生をいち早く把握するため、ハウス内に約40枚の粘着シートを設置し対策しています。

また、メロンは、通常1つのツルから3個ほど収穫されますが、1本1果採りを採用し糖度13度以上のものを選定し出荷しています。収穫1ヵ月前から極力水を与えず、土に含まれる養分を最大限まで吸い上げさせることで糖度を上げ、収穫前と出荷時の計2回、糖度を計測するなど徹底した管理を行っています。JA兵庫南 稲美営農経済センター 営農渉外 笹倉あかねさんは「豊富な知識や技術を活かして栽培に取り組む小山さんと共に、今後も稲美町のメロン栽培を盛り上げていきたい」と話します。

こだわりのメロンは、「ひょうご推奨ブランド」を取得しており、販売先の直売所やECサイトで人気を集めています。

小山さんは、今後も減農薬栽培や徹底した糖度管理を行い、高品質なメロンを消費者に届けます。



<https://ja-grp-hyogo.or.jp/>

すべての議案審議が滞りなく終了 ～第74回 兵庫県生協連 通常総会 開催～

〈基本テーマ〉
「つながる力で未来を拓く
～平和で持続可能な社会の実現～」

6月24日兵庫県民会館で兵庫県生協連第74回通常総会を開催しました。

代議員総数35名中、32名が出席（実出席25名、書面議決7名）し、2023年度活動報告、2024年度活動計画など5つの議案について審議し、全議案が可決・承認されました。

はじめに岩山利久会長理事の開会の挨拶があり、続いて兵庫県民生活部長 木村晶子氏、神戸市地域協働局 副局長 保科暁子氏をはじめ、兵庫県農業協同組合中央会 代表理事専務 波々伯部正氏、日本生活協同組合連合会 関西地連 事務局長 村上 毅氏など、兵協連会員生協・団体を含む全国の生協の仲間や友誼団体の皆様からのお祝いのメッセージや祝電の披露がありました。

総会では、尼崎市民共済生協 中村由起子代議員が議長に選任され、議事を進行。第1号議案、第2号議案の審議を行い、続いて第3号議案、第4号議案、第5号議案についても提案と審議が行われ、全ての議案が可決・承認されました。

また役員選任と総会直後に開催された第1回理事会の結果、新たな役員体制が決定しました。



兵庫県生活協同組合連合会 岩山利久会長理事

<https://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター研究発表会のご案内

令和6年度の研究発表会を下記のとおり開催します。

【研究発表会】令和6年9月6日（金）13:30～16:00

【場所】兵庫県立水産技術センター2階大研修室



ノリ色落ち発生予測や養殖マス類の魚病診断に関する研究（水産技術センター）、ベニズワイガニの成長に関する研究（但馬水産技術センター）、ワカメ種苗生産に関する取組（南あわじ漁協4Hクラブ）に加え、加古川東高校の探究いかなご班のみなさんから、いかなご回復への提言を発表していただきます。

参加には、水産技術センターホームページから事前申込が必要です（先着80名）。

ご不明な点は当センターまで、お問い合わせください（電話：078-941-8601）。

令和6年度兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター研究発表会

日時：令和6年9月6日（金）
13:30～16:00
場所：水産技術センター
2階大研修室

兵庫県の水産試験研究
の成果を、わかりやすく
発表します



- 13:30 開会
- 13:40 光合成活性を指標としたノリ色落ち発生予測の検討
肥後 翔太(水産技術センター水産環境部)
- 14:05 この稚ガニ、漁獲されるのはいつ？
ーベニズワイガニの脱皮と成長を考えるー
岸本 早貴(但馬水産技術センター)
- 14:30 いかなごの漁獲量を回復させるための提言
かことん 探究いかなご班(県立加古川東高等学校)
- 14:55 ～休憩～
- 15:10 フリー配偶体によるワカメの種苗生産
中尾 侑生(南あわじ漁業協同組合4Hクラブ)
- 15:35 養殖マス類の魚病診断の改良
安信 秀樹(水産技術センター増殖部)
- 16:00 閉会

【参加申込】
水産技術センターHPから



【問合せ】
〒674-0093 明石市二見町南二見 22-2
兵庫県立農林水産技術総合センター
水産技術センター
電話：078-941-8601

URL：<https://www.hyogo-suigi.jp/meeting2024/>

協同組合人養成講座 8月講座(8月20日(火))のご案内 JF兵庫漁連

開催時間	講座名	講師名
13:00～14:30	マネージメントについて	JF兵庫漁連 指導部 指導担当 田中 久善 Youtubeを活用して講義を実施致します
14:40～16:10	漁船法について	兵庫県水産漁港課 漁政班主幹 峰 浩司

講座はWEB受講も可能ですので、多数の方々の参加をお待ちしております。また、会館での参加者による情報交換会では、簡単な食事と飲物を交えての職員間のコミュニケーションが図れますので、会館での受講にも参加下さい。

今が旬の魚介で作る!!

保存版

簡単!! 魚介レシピ

ハモの柳川丼



ハモは低脂肪でたんぱくな食材です。ビタミンDやカルシウムも豊富に含まれており、健康にも良いとされています。



材料

ハモ（骨切り済）	1/2尾	A) 和風だし	150ml
ゴボウ	1/2本	A) 酒	大2
玉ねぎ	1/8個	A) みりん	大1
みつ葉	1/4束	A) 薄口醤油	大1
卵	2個	A) 塩	1つまみ
粉山椒	少々		

作り方

- ①ハモは2cm幅に切る。
- ②玉ねぎはスライスし、みつ葉は茎を刻む。
- ③ごぼうは細めのさがきにして水に浸し、沸騰した湯で1分茹でる。
- ④浅鍋にAとごぼう、玉ねぎを入れ、中火で玉ねぎがしんなりしたらハモを加えて弱火で煮る。
- ⑤卵を溶き、強火で半量を回し入れ固まりかけたら火を止め、残りの半量と刻んだみつ葉を加え、蓋をして1分蒸らす。
- ⑥温かいご飯の上につけ、残りのみつ葉を盛る。お好みで粉山椒を散らす。

ひょうごのお魚ファンクラブ

SEAT CLUB

表紙の言葉



やましろあきひと
浜坂漁業協同組合 山城明人さん

JF浜坂（諸寄支所）で沖合底びき網漁業に従事されている山城明人さんにお話を伺いました。漁師の仕事について、「大変なことは多いが、大変な思いをして頑張った分だけ、水揚げや給料に反映されるので、やりがいはいっしょりあります」と力強く話されている様子が印象的でした。